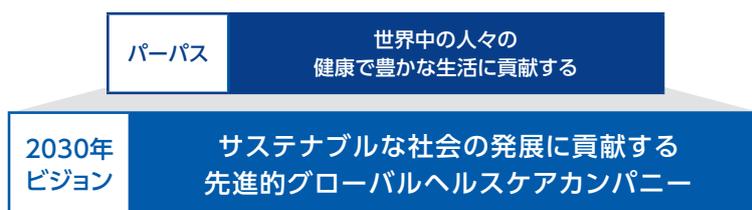


創出する社会的価値

マテリアリティへの取り組みを通じて創出される社会的価値は、当社グループにおけるSDGsへの貢献につながっています。当社グループの果たす社会的意義について、パーパス、ビジョン、ミッション、取り組みを整理し、パーパス実現に向けた取り組みの実践度合い(社会的価値の創出)を可視化しました。

社会からの期待が高く当社グループが最も貢献できる「世界中の人々の健康への貢献」は、SDGsの目標3「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」につながっており、その達成に向けては、目標9、12、17にも貢献してまいります。また、環境経営を推進すべく、社会的要請の高い「環境負荷低減への貢献」に取り組むとともに、事業基盤を支えるためにコーポレートシチズンとして目標5、8、10、16にも取り組んでまいります。



革新的な医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

関連するマテリアリティ：革新的医薬品の創出、高品質な医薬品の安定供給、高品質な医療情報の提供、医療アクセスの拡大



先進的な医薬品を継続的に創出することで、人々の健康を改善し、標準治療を変革する革新的な治療法・予防法の確立に取り組めます。各国市場の事情を十分に考慮し、医薬品へのアクセスが制限される患者さんに対しては、関係するステークホルダーとの連携によりアクセス向上に取り組むとともに、開発途上国での医療アクセス改善にも取り組めます。また、偽造医薬品対策を各国・地域の規制やリスクに合わせた確に対応します。



SDGs目標3への貢献に向けて、パートナーシップやオープンイノベーションなどの社会・関係資本を活用し、当社独自の強みである「サイエンス&テクノロジー」を活かしてイノベーションを推進します。



GMP (Good Manufacturing Practice: 医薬品の製造管理および品質管理規則)を高い基準で遵守し、製商品の品質を保證するとともに、安定的かつ確実な供給に取り組めます。

2050年までにカーボンニュートラルを実現し、生命関連企業として事業活動における環境負荷の低減と先進的な気候変動対策を積極的に実践する

関連するマテリアリティ：環境経営の推進



環境問題による影響として疾病構造の変化や医薬品の安定供給への懸念などが当社の長期的なビジネス基盤へのリスク要因であることを認識し、責任ある社会の一員として、事業活動における環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に向けた環境対策に事業活動と一体的に取り組めます。

事業基盤マテリアリティ「コンプライアンス経営の推進」「企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス」「競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成」を通じて、目標5、8、10、16へも貢献してまいります



■ コンプライアンス経営の推進、企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス

製薬企業は、医薬品という生命に関わる製品を扱っていることからより高い倫理観が求められています。第一三共グループは、多様なステークホルダーとの関係で、「コンプライアンス」は企業活動の基盤であると考え、法令遵守はもとより、社員一人ひとりが高い倫理観で行動する経営を推進しています。また、「ビジネスパートナー行動規範」を定め、ビジネスパートナーと一体となって持続可能な調達を推進することで社会的責任を果たしてまいります。そして、ステークホルダーとの価値共創に向け取り組むとともに、ステークホルダーの期待に応える透明性の高い経営の実現を目指します。



■ 競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成

企業活動を行う上では人権を尊重することが極めて重要であるとの認識のもと、関連法令を遵守するとともに、ステークホルダーからの期待に応えるべく、人権尊重に向けた取り組みを進めます。全ての事業活動は人材によって支えられており、ダイバーシティ・ワークやインクルージョン&ダイバーシティに取り組む、社員一人ひとりが働きがいを持ってよう人材の活躍推進と育成を図り、社員と会社の相互の持続的な成長を目指します。



創出する社会的価値

2020年度の主な取り組み

SDGs	取り組み内容	2020年度の取り組み
  	革新的な医薬品の創出	<ul style="list-style-type: none"> がん治療薬エンハーツのEUにおける条件付きHER2陽性乳がん承認取得、日米におけるHER2陽性胃がん承認取得、米国におけるHER2陽性胃がんおよびHER2遺伝子変異を有する非小細胞肺癌への画期的治療薬指定 Syneoes (臨床開発受託機関)との新たな戦略的提携のもと、品質保証契約を締結し、治験に参加する被験者の安全性、人権保護および試験データの信頼性を損なうような問題点をタイムリーに共有するとともに、是正措置・予防を適切に実施しているか確認・協議することにより、臨床試験における品質の監視を行い、プロアクティブな品質確保を推進 再発または難治性の大細胞型B細胞リンパ腫の治療を目的としたヒト体細胞加工製品「イエスカルタ®点滴静注」の国内における製造販売承認取得 悪性神経膠腫の治療を目的としたがん治療用ウイルスG47Δ[デリタクト®注]の日本における製造販売承認申請 未だ十分な予防・治療法のないRSV感染症に対する予防ワクチンとしてVN-0200の研究開発を推進 国内、米国および欧州において、感染症の流行のために通院困難となった患者さんが治療を継続できるように、自宅や近隣施設に品質保証された治療薬を供給 革新的なバイオ医薬品の継続的創出に向け、バイオ技術を駆使して最適な分子設計〜大量生産方法の確立検討を継続実施 三菱UFJキャピタル、名古屋工業大学による視覚再生のための遺伝子治療薬に関するオープンイノベーション研究の開始 ウルトラジェニクス社より遺伝子治療薬製造技術の導入を開始 LYSA-LYSARC-CALYMとパレトスタットの再発または難治性B細胞リンパ腫患者を対象とした共同研究開発を開始 研究開発から製造までの持続可能なグローバル・パートナーシップを実現するための、企業間でのデータ活用を可能とする統合データ分析基盤を構築 異業種連携 (パートナーシップ)を活用しがん領域のデジタルソリューションの開発を開始 COVID-19ワクチンとして国内で初の遺伝子組換えウイルスワクチンを取り扱うためにカルタヘナ法対応を推進。当該ワクチンの取り扱い製造所として国内で初めて第二種使用等拡散防止措置に関する厚生労働大臣確認を取得
   	高品質な医薬品の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備の増強・合理化および研究開発の強化・効率化等を目的とした設備投資を実施 (2020年度の設備投資は401億円) 機能および地域特性に合わせた事業継続計画 (BCP)を更新 国内グループ会社1,660アイテムの原材料取引先を対象にトレーサビリティを確認する製造元調査を実施。約180社を対象に品質・コスト・納期の満足度を確保する取引先評価を実施 COVID-19対策チームを立ち上げ、感染防止策の徹底を図り、工場稼働を継続。既存品全般の安定供給を達成 政府の増産要請に応じて当初の計画を上回る量の季節性インフルエンザワクチンを供給 MRワクチン (麻疹・風疹)の第5期定期接種および東京五輪を見込んだ増産要請に対応 「イエスカルタ点滴静注」の上市にあたり、患者さんの登録→アフターサービス→製造→輸送→保管→投与までの一連の流れの中で、検体・製品の「取り違い」を防止する体制を構築し、高品質な医薬品の安定的供給体制を確保 <ul style="list-style-type: none"> * 再生医療における必要な細胞成分や液性因子を分離採取する医療技術 PIC/S Guideを基本としたGMP (適正な製造・品質管理基準)およびGDP (適正な流通・保管管理基準)に関する品質基準を定め、医薬品の製造だけでなく、流通段階も含めた品質保証を推進 (2020年度実績:国内外のグループ会社において21件の当局査察を受け、Critical (重度)の指摘無し) 患者さんの使用性を考慮したLCM製剤を開発し、服薬コンプライアンス向上による残薬抑制等を志向 (エサキセレンOD錠、ミロガバリンOD錠) 飲みやすさ等利便性を追求し、患者さんの服薬をサポートするだけでなく、医療従事者や介護者への安全・安心を追求した先発品にない剤型のジェネリック品を上市
 	高品質な医療情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> エンハーツの複数の臨床試験のデータやCSRの情報を統合し迅速に検索できるシステム (Safety Lake)を構築し、医療従事者からの問い合わせに対して、副作用の経過情報、患者背景別の副作用発現頻度等の安全性情報を迅速かつ高品質に提供 日本における75歳以上の心房細動患者を対象とした観察研究ANAFIE Registryなどの臨床研究データや、エンハーツの臨床開発試験データなどを中心に、国内外の学会で発表。また、論文投稿も積極的に実施し、エンハーツ DESTINY-Gastric01試験 (日本、韓国において実施したHER2陽性胃がん患者を対象とした第2相臨床試験)はThe New England Journal of Medicineに掲載 COVID-19により多様化した医療従事者のニーズに対応するため、リアルとデジタル両面からの情報提供を実施。顧客ニーズに対応した患者指導用資料の提供等により、2020年8月および2021年2月のMR評価に関する調査の結果、6年連続のNo.1評価を獲得 保険薬局薬剤師のコールセンター外部評価は、総合満足度 6年連続No.1に加え、調査8項目5年連続No.1の評価を獲得 患者遺伝子情報を使った仮説検証・新仮説創出などを定常的に実施するための基盤、統合データ解析プラットフォームシステム (OASIS)を構築し、DESTINY-Breast01のデータを用いたトランスレーショナル・リサーチ解析の結果をASCO2020で発表
  	医療アクセスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> アストラゼネカ社との協業により申請戦略を構築して薬事申請を達成し、供給経験のない国への治験薬供給を達成 DS-5670プロジェクトが厚生労働省のワクチン生産体制等緊急整備事業の事業者、および国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)のワクチン開発 (企業主導型)に採択 第一三共バイオテックの実生産設備を活用し、COVID-19ワクチン製造受託事業として、AZD-1222の国内での製剤化を実施 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)によるパートナーシップを活用し、顧みられない熱帯病 (NTDs)の一つとして知られるシャーガス病治療薬の臨床候補化合物の探索や、天然物による結核治療薬の探索など複数のプロジェクトを推進。また、マラリア治療薬のスクリーニングプロジェクトを開始 グローバル抗菌薬研究開発パートナーシップ (GARDP)が主導する「AMRスクリーニングコンソーシアム」に参加する契約 (2019年締結)に基づき、各社の化合物ライブラリーを用いた抗菌活性を有する新規化合物の取得を目指し、スクリーニングを実施

SDGs	取り組み内容	2020年度の取り組み
  	医療アクセスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> 新規抗菌薬の臨床開発の支援と持続可能な抗菌薬市場の実現のために設立された「AMR Action Fund」に参画し、総額2千万米ドルを拠出することを決定 (2020年7月) 米国におけるエンハーツのHER2陽性の胃がんに対する希少疾病用医薬品指定取得 希少疾病用再生医療等製品の指定を受けた「イエスカルタ点滴静注」の国内における製造販売承認取得および同指定を受けた「デリタクト注」の国内における製造販売承認申請 デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者を対象とした核酸医薬品DS-5141の国内第1/2相臨床試験の結果取得 医薬品アクセスが困難な国々への特許権利不行使 <ul style="list-style-type: none"> * サハラ以南のアフリカ (南アフリカを除く)、国連が定める後開発途上国 (Least Developed Country: LDC) および世界銀行が定める低所得国 (Low Income Country: LIC) ミャンマーにて公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンと協働し、新生児および5歳未満児の死亡率の減少、妊産婦健診の受診率の向上などを成果指標 (KPI)とし、移動診療サービスを実施 (2019年度-2022年度) 非営利団体アメリカを介して、薬剤を開発途上国へ寄付。2020年度は総額\$12,542,952 (約13億8千万円)
     	環境経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> テレマティクスによる危険運転回避に伴うCO₂排出量低減の実現 全事業所の電力調達の選定方針を変更し、供給事業者単体の再生エネルギー発電力や近隣の発電時CO₂排出係数も新たに評価 一部の新製品の包装で、バイオマスプラスチック材料の使用を開始 ヘルスケア製品において環境に配慮したFSC認証紙を使用 継続的に開発初期から合成プロセスの環境・エネルギー等の負荷を評価し、グリーンケミストリーを意識した研究を実施し、原薬製造プロセスの環境負荷低減を推進 製造工程での省資源化、不要物・廃棄物の分別徹底・減容化などに取り組み、外部に処理を委託する場合も可能な限り再資源化を行っている業者を選定 小名浜工場 (第一三共ケミカルファーマ)にて医薬品業界において自家消費型として国内最大級となる太陽光発電設備 (3.3メガワットの発電出力)を2020年12月に稼働し、年間約1,800tのCO₂削減効果を見込む パフンホーフェン工場 (第一三共ヨーロッパ GmbH)にて太陽光発電設備を設置開始 2030年度までの気候変動によるシナリオ分析を実施し、TCFD提言に基づく当社の気候関連リスクと機会について、第5期中期経営計画の環境目標や計画に反映 近年激甚化している気象災害 (豪雨、台風等)に備え、「重大な被害が想定される気象災害 (豪雨・台風等)対応マニュアル」を整備
  	コンプライアンス経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「第一三共グループ個人行動規範」を新たに制定し、グローバル統一研修を実施 国内の全社員を対象としたコンプライアンス意識調査を実施 主要ビジネスパートナーを対象とした第2回CSR自己点検調査を開始 ビジネスパートナーの顕在リスクを迅速に把握するため、外部リスクデータソースを活用するITシステムを導入、またビジネスパートナーリスク管理体制の理解促進を図る社内研修を実施 個人情報保護に関するグローバルの基本方針として「第一三共グループプライバシーポリシー」を制定 多様な医療ニーズを持つ人々に安全で有効な医薬品および高品質の医療情報を提供するため、当社に品質を最優先する文化を醸成し、コンプライアンス経営を推進することを目的として「第一三共グループコンプライアンスポリシー」を制定 調達コンプライアンスリスクの最小化を実現する取り組みの一環として、ビジネスパートナーとの取引プロセスを可視化する調達購買システムSAP Aribaを導入
 	企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役の取締役会議長就任 社外役員の理解促進と取締役会の議論の活性化につながる情報提供の充実 取締役会評価を通じた取締役会の実効性向上 監査役会の実効性評価の実施 デジタル戦略を担うCIOと情報管理を担うCISOをトップとする情報ガバナンス体制を確立。グローバルポリシーとして「第一三共グループ情報セキュリティポリシー」「第一三共グループ データガバナンスポリシー」を制定
   	競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成	<ul style="list-style-type: none"> 第5期中期経営計画において、グローバル共通のCore Behavior (行動様式)の一つとして「Be Inclusive & Embrace Diversity」を明確化 2025年度KPI目標としてグローバルでの女性上級幹部社員比率を30%に設定。第一三共 (株)における女性マネジメント職比率は2020年度7.3% (対前年度132.7%増)に増加。 2020年9月に国内グループ全社員を対象にLGBTの理解促進に関するEラーニングを実施するとともに、2020年10月より同性パートナーが社内制度において法的な配偶者と同等の支援が受けられるように改定。また、任意団体「work with Pride」が策定した「PRIDE目標2020」において、2020年度初めてエントリーシ「プロンズ」を受賞 自律的かつ継続的にキャリアを築くマインドを醸成するため、全社員対象にキャリアデザインセミナーを開催。また、キャリア形成において、業務では習得がたい経験・知識等や新しい経験の獲得を支援するキャリア支援体制制度を新設 当社グループビジョンの実現とアフターコロナを見据えた持続的成長に向け、働き方や仕事の見直しによる一人ひとりの「生産性向上」と「エンゲージメント向上」に取り組む「DS Smart Work」をスタート 時間や場所に捕らわれない柔軟な働き方を促進するために2020年10月からテレワーク制度の拡充 (利用日数、就業場所)を実施 COVID-19による心身の健康や職場コミュニケーションの低下を防止するため、国内グループにおいて勤務実態調査によるメンタルケア、オンラインでの健康セミナー、マネジメント職向けにマネジメント研修等を実施